

学生支援に関する研修を実施

NPO法人学生文化創造 大学の事例も共有

NPO法人学生文化創造は8月29日、30日の2日間対面により「学生支援に関する基礎研修講座」を開催し、国・公立大学職員11人、私立大学・短期大学職員等40人、合計51人が受講した。また、31日には「スチュUDENTコンサルタント認定試験」を実施、45人が受験した。

8月29日には基礎研修講座に先立ち、無料公開講演会(題目「高等教育の現



ワークショップの様子

状と課題、講師・嶋口湧士氏(文部科学省大学教授・入試課専門職)を

実施した。

講義1では、桐蔭学園理事長の溝上慎一氏から

「高等教育改革の進展―準正課・正課外プログラムの「文部西道」「ノー作り」を支援して、教育マネジメントに繋げる」と題して、①キャリア支援としての「ノート作り」、②教育マネジメントとして組織化する同大学の学生支援、③学生支援の本質は「ウェルビーイング」支援である等

について事例等を示しながら説明が行われた。個人ワークでは感想や考えたことがグループでシェアされ、また受講生に対しては「大学のDPを意識した教育・支援をしていますか」という問いが投げかけられた。

講義2では、成城大学学長の杉本義行氏から「修学支援・学生支援における教職協働―教職協働のあるべき姿」と題して、①教職協働―大学設置基準と本学の事例、②教職学協働―本学のアサポーター制度の実際、の説明があった。グループワークは長尾繁樹同大学長室長のファシリテーターの進行で行われ、各所属大学の修学支援・学修支援について課題共有とその課題解決の具体的な提案が発表された。

講義3では、筑紫女学院大学教学支援部班長の竹山優子氏から「学生の自律と大学の役割―多様な中の支援の醍醐味」と題して、①大学を取り巻く現状と学生支援、②障害学生支援をヒントに、③「学生の自律」に向けての具体的な事例について、その課題と対応について説明があった。

グループワークは各所属大学の「課題ある学生の事例」を共有し、卒業までに「自律」するため有効な具体的支援策について解説した。

講義4では、千葉大学国際未来教育基幹教授の大西好宣氏から「学生支援・学修支援としての海外留学アドバイジング―現状分析とケースメソッドによるワークショップ」と題して、①留学生受け入れと日本人学生の派遣、②大学が提供する留学支援サービス等について説明が行われた。また事前に2課題が受講生に示され、それに基づきグループワークが行われた。引き続き、具体的事例の動画を用いて、その意図を受講生に熟考させた。

なおケーススタディとケースメソッドは同じではない。ケースメソッドは疑似体験で場数をこなすことが判断力の基礎になる等の解説も行われた。

講義5では、大阪公立大学国際基幹教育機構教授の星野聡孝氏から「大学教育と生成AIについて―大学はどのように対応すべきか」と題して、①生成AIの状況と影響、②生成AIへの対応、③今後の対応策を考える等について具体的事例、ChatGPTで作成された事例、ChatGPT以降の生成AI、新型「プロナ」対応からの示唆などについて詳細な説明が行われた。個人ワークで生成AIの新たな活用施策を考え、それをグループでシェアし、施策実現に向けたプランについて発表があった。

また、5年ぶりの対面での開催となり、懇親会やグループ別の懇談会を実施した。今回の研修会は「学生支援に関する研修会」(障害のある学生支援)を10月24日、25日の2日間(対面・オンライン方式)で行う。申込締切は10月11日(金)、詳しくは学生文化創造まで。